

うだちから

「うだちから」とは、宇陀に由来からある
地域コミュニティの力(宇陀力)のことです。
このコーナーでは、市が「取り組む」
「まちづくり」や NPO 団体などを紹介します。
問 市民協働課 ☎82・2130/IP ☎88・9085

1 災害に備えて防災訓練

～大宇陀政始まち協～

大宇陀政始まち協では、近年、地震や大雨による災害が報道されるなか、南海トラフ地震を中心とした防災対策と救命講習会を8月29日(土)旧守道小学校体育館で行いました。
南海トラフ地震は30年以内に60～90%の確率で発生するとされ、奈良県は津波被害の危険こそないものの、周辺地域の甚大な被害により支援が届きにくく「孤立」する可能性が想定されています。そのためまず身を



▲心肺蘇生法を真剣に学んでいます

2 地域で盛り上げる夏まつり

～東榛原まち協～

東榛原の夏の恒例行事「東榛原夏まつり」を8月9日(日)に開催し、地域内外から約1500人の皆さんにご来場いただきました。
当日は、各自治会によるバザーをはじめ、シャボン玉ショー、タッパダンス、歌謡ショー、盆踊り、そしてお楽しみ抽選会など、多彩な催しで会場は大いににぎわいました。世代を問わず笑顔が広がり、夏のひとときを地域みんなで楽しむ一日となりました。

また、本まつりは前日の準備から当日の運営、翌日の後片付けまで、各自治会から集まったスタッフの皆さんが暑いなか、力を合わせて支えてくださいました。地域住民の協力によって作り上げられた、まさに「東榛原らしい」夏まつりとなりました。
今年はファイナーレとして、BGMに合わせた花火の打ち上げを実施し、会場からは大きな歓声が上がりました。参加された皆さんにとって、印象に残る夏の思い出になったことと思います。



▲フィナーレの様子

3 夏祭り～地域の語らいと出の場所づくり～

～室生地域～

8月の土・日、室生地域の5地区では、まちづくり協議会が中心となり、夏祭りを開催しました。

三本松地区は、送迎車を活用して参加者を増やし、多くの地域住民の参加を促すことができました。また、地域主体の出店や、やぐらを囲んでのDJ盆踊りも好評でにぎやかに交流を深めることができました。



▲三本松地区



▲向洲地区

向洲地区は、例年通り「やまびこホール」に隣接するお寺で「高堂会式」のお参りが行われてから、地域住民主体の出店でお祭りが始まりました。会場では互いを懐かしむ声や近況を語り合うなど、様々な声が聞こえていました。

室生地区は、昨年中止となった祭りを再開し、地元出店と他所からの協力出店に加え、所属団体「室生龍穴太鼓 龍神」による演舞や抽選会、最後には迫力満点な花火を打ちあげて、印象深い夏祭りになりました。
西谷地区は、地元出店に加え、音楽バンドや落語、カラオケ大会など多彩な催しとともに人が集まる機会



▲室生地区



▲西谷地区

に合わせて、地元警察官による防犯講話も実施しました。
大野地区は、バザーで利用できる食事券を配付するとともに、和太鼓演奏の鑑賞や和太鼓の演奏体験、電子オルガンの伴奏による合唱、そして抽選会と、参加者が一体となって楽しめました。



▲大野地区



今年は昨年と違い、どこの地区でも子どもたちを連れた若い世代の里帰りが多くみられました。地域を離れても、いつの日か気軽に戻ってこられる場所、移住された方も住み続けたいと思える地域を目指し、工夫を凝らしながら今後も事業を継続します。



ヤマノイモ(山の芋)

山に行けば、ヤマノイモの葉の付け根にムカゴ(珠芽)が付いて、大きくなっています。このムカゴを炒って、おやつとして食べたり、塩味を付けたムカゴご飯にしたり、汁の実や、茶わん蒸しに入れてもおいしいものです。滋養強壮の効果を得られるほか、腎臓の働きも補ってくれ、便秘の解消にもなるのです。

ヤマノイモは山の芋、やまと芋、長芋、いちよう芋、自然じねん薯、大薯など、様々な呼び名があります。この芋を乾燥したものは

生薬名を山薬(さんやく)といい、「神農本草経」(217年)の時代から使われている有名な薬草なのです。

山薬は昔から下痢止めや健胃薬、強壮剤として利用されています。根に含まれているムチンという成分の作用で、タンパク質の代謝を促し、栄養分を効率よく処理するので、疲労回復や病後の栄養補給、虚弱体質の改善に使われているのです。またムチンの粘る性質は胃の粘膜を保護するので、胃炎、胃潰瘍など胃の炎症を保護するためにも使われます。



※当市で「薬草活用講演会」をしていたいだいた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

問 商工業課 ☎82・5874 / IP ☎88・9075